

企業倒産と債務不履行リスク：金融機関の役割

畠田 敬*

神戸大学大学院経営学研究科

柴本 昌彦

神戸大学経済経営研究所

中尾田 宏

京都文教大学総合社会学部

概要

本論文ではバブル崩壊後の日本における企業の倒産要因について、債務不履行リスクが企業倒産確率に与える影響、そして、その金融機関の役割に焦点を当てて分析を行った。具体的には、各企業の債務不履行リスクをデフォルト距離で測り、デフォルト距離が企業倒産確率に与える影響を分析する。また、金融救済を受けた企業とそうではない企業で倒産決定要因に違いがあるのかを分析する。更に、金融機関との依存関係が倒産決定要因にどのような影響を持っているのかを調べた。分析の結果、デフォルト距離が次期の企業の倒産確率に対して有益な情報を与えていることがわかった。また、金融救済を受けていないが金融機関と密接な関係を構築している企業の場合、たとえ債務不履行リスクが高まったとしても倒産確率に与える影響は限定的になることが分かった。更に、すでに金融救済を受けている企業の債務不履行リスクが高まった場合、金融機関と密接な関係を構築していたとしてもそれは倒産確率を下げる要因とはなっていないことが分かった。

* Email:hatakeda@kobe-u.ac.jp